

こ し ょ う が つ  
小 正 月



# 小正月とは…

- ▶ 1月1日を中心とする大正月に対する呼称。

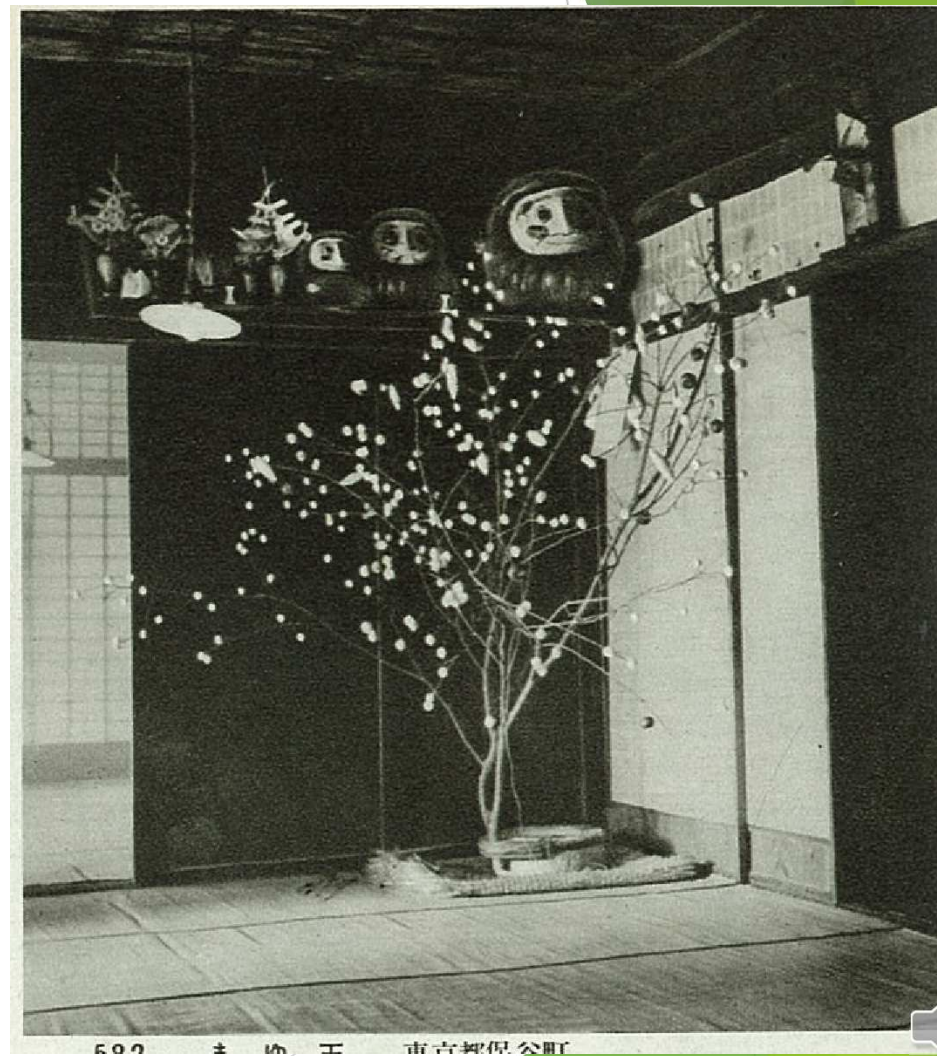
大正月から小正月の間、8日～14日までを餅あわい・餅あい・餅なかなどと呼び、普段の食事をし普段通りに仕事をする期間としているところが多くみられました。現在は3が日が過ぎると勤務が始まります。

- ▶ 1月15日を中心とする前後の期間を小正月といいます。
- ▶ 小正月という呼称は東日本で多く用いられ、ほかには、若年・十五日正月・女正月・望の正月・望年などとも呼ばれていました。
- ▶ 15日は太陰太陽暦の望月の日。満月のようにさまざまなものが満ちてくれますようにとの祈りを込めていろいろな行事が行われます。



## マユダマ

1月14日に米の粉で作ります。神棚の前や大黒柱に飾ります。



500 主 公 工 市 吉 保 保 公 町



# なりづもくぜめ（果樹責め）

マユダマを作ったときのゆで汁を桶に入れ、一人は鉋か鎌をもち、一人は湯の入った桶をもって家の周りにある実のなる樹木のところへ行き、「なるかならぬかならなきゃ鎌（鉋）で かつきるぞ」といって木に傷をつけます。もう一人が「なります なります」といって湯を木にかけて回りました。これを「なりづもくぜめ」といい、これをするとう果実がよくなるといわれ、昭和の初めごろまでは盛んに行っていたといえます。





稲の花（餅をついて作る）と  
ケーカキ棒（小豆粥をかき混ぜる箸）





586 小正月のナリギ 岩手県気仙郡

## けずりかけ

削りかけのように花が  
咲いて実になりますよ  
うに！





# 予祝行事 安曇野の鳥追い（長尾）



## 歳神様を送る三九郎





三九郎の火で繭玉を焼いて食べます。  
無病息災で過ごせるといわれています。



# 小正月が終わると・・・

小正月に行われる三九郎の火に乗って、年神様は帰っていくといわれていますが、昔は二十日正月、あるいは1月31日の晦日正月まで正月気分が続いていました。

現在は3が日が過ぎると官公庁の仕事、会社の仕事が始まり、かつてのようにゆったりと正月気分を味わうことができなくなりました、したがって、親戚や親しい友人などを訪ねて新年のあいさつをする「年始回り」も、現在ではほとんど行われなくなりました。

今は、代わりにやり取りされるのが年賀状です。

